

ご案内

国際保健セミナー・シリーズ“沖縄から洞爺湖へ” in 長崎 人と健康のための国際シンポジウム

健康とは、身体のみならず精神的、社会的にも前向きに生きることとの調和のなかで築かれるものであり、性別や人種、国籍、宗教を問わず誰にでも平等に保障されるべきものです。しかし、世界では未だエイズ、結核、マラリアなどの感染症で多くの人々の健康が損なわれています。感染症が、貧困や社会的格差、暴力と隣り合わせとなって人々の命や暮らしを脅かしているためであり、アフリカやアジアの国々ではその傾向が特に顕著です。

日本においても若者を中心としてエイズが広がっています。過去の病気とされていた結核も増加傾向にあります。このような脅威に立ち向かうために、世界の色々な場所で人々が支援の声をあげています。本シンポジウムでは、世界規模で猛威をふるう感染症の脅威と戦うために支援の輪を広げる活動をしている人々を長崎に迎え、次世代の若者や市民の方々と共に世界の現状と国際協力のあり方を考える場を持つことを目的としています。自国あるいは地域にかかわる問題としての感染症、それに対する取り組み、そして日本の若者へのメッセージなどを交えて講演していただく予定です。ぜひご参加ください。そして、皆さんのなかの国際協力について考えてみませんか。

日時:2008年5月26日(月) 14~16時

場所:長崎大学 文教キャンパス 中部講堂

プログラム(司会 青木克己 長崎大学熱帯医学研究所教授)

1400~1410 長崎大学 齋藤寛学長挨拶

1410~1430 アリ・モハメド・アサード

1430~1450 チオマ・ンワチュク

1450~1510 ルイ・ダガマ

1510~ 質疑応答

シンポジストの紹介

アリ・モハメド・アサード

世界エイズ・結核・マラリア対策基金(世界基金)理事代理、元ヨルダン保健省技術総括次官、
世界保健機関(WHO)東地中海地域事務所のエイズに関するアドバイザー・グループメンバーを務める。また、世界エイズ・結核・マラリア対策基金(世界基金)理事会の理事代理、世界基金支援中東委員会の代表も兼務する。クロアチアのザグレブ大学より、医学学士号、公衆衛生学・疫学修士号を取得。その後、開業医として勤務。1982年から2008年まで、ヨルダン保健省において、国家エイズ対策プログラムマネージャー、プライマリー・ヘルスケア局副局長、技術総括次官などを歴任。保健省では、アラブ地域医療委員会における医師に対する研修や、プライマリー・ヘルスケア、疫学、疾病サーベイランス、性感染症/エイズに携わる医師・医療従事者への国内研修に従事した。その他、非感染症・広域に流行する感染症・鳥インフルエンザ国内対策委員会や、国連合同エイズ計画(UNAIDS)のヨルダン性感染症/エイズ・テーマ・グループの座長を務めた。また、STCのメンバーとして、中東諸国における疾病サーベイランスをWHOとともに数回行った。感染症についての数々の研究・調査活動、フィールド・ワーク、報告書執筆などを行っている。

チオマンワチュク

世界基金支援アフリカ委員会 アソシエート・マネジャー

HIV/エイズ、性と生殖の健康、非感染症、アフリカ開発などを専門とし、地理情報システムに関する豊富な経験を有する。国際家族計画連盟（IPPF）、米国地理情報システムセンター、アトランタのクレフロ・ダラー奉仕団などで、定量分析、戦略策定、保健問題への地理情報システムの活用などを中心に仕事をし、現在、世界エイズ・結核・マラリア対策基金を支援するアフリカの民間組織「世界基金支援アフリカ委員会」（Friends of the Global Fund Africa）のアソシエート・マネジャーを務める。カメルーン、ナイジェリア、ブルキナファソ、ブルンジにおける世界基金支援のプロジェクトに対する技術協力の動員、アフリカ 10 カ国の三大感染症対策に対し国レベルの支援を提供している。ジョージア工科大学より国際関係学士、ロンドン大学政治経済大学院（LSE）より保健・人口・社会分野の修士号取得。著書に、*Too much accountability and not enough Governance in the National Health Service* (2004), *UK All Party Parliamentary Group on Population Development and Reproductive Health and IPPF survey on the Integration of Sexual and Reproductive Health and HIV/AIDS policies, programs and services* (2004) など。

ルイ・ダガマ

グローバル・ヘルス・アドボケーツ マラリア・アドボカシー広報局長

1998年に国際マラリア財団のヨーロッパ事務所創設に従事して以来、マラリア・コミュニティを代表し活動している。国際的なマラリア対策のための資金動員や、資金の透明性や説明責任の向上のための活動に携わり、1998年に開始された国際イニシアティブ「ロールバック・マラリア」のパートナーを務めた。2003年には、エイズ、結核、マラリアに関するアドボカシー、および、世界エイズ・結核・マラリア対策基金を支援するアドボカシーを行う「マッシブ・エフォート・キャンペーン」に出向。2010年までにマラリアによる死者を半減するという2000年のアブジャ宣言での約束を守る責任を果たすよう、アフリカ諸国の指導者や二国間援助機関、国際機関に働きかける「マラリアのための関税撤廃キャンペーン」を主導した。マラリアの根絶のために、より多くの資金を援助国や世界銀行から得られるよう、コミュニティ、国、国際レベルで運動を展開している。このほか、マラリアに取り組むアフリカの人々の国際的な発言力を増大させることを目的としたMAMA (Mobilizing against Malaria Across) Africa運動を促進する上で大きな役割を果たした。

主催：国立大学法人長崎大学

共催：財団法人日本国際交流センター

世界基金支援日本委員会

社団法人国立大学協会九州地区支部

後援：独立行政法人国際協力機構（JICA）

国際保健セミナー・シリーズ “沖縄から洞爺湖へ” in 長崎 人と健康のための国際シンポジウム

2008年5月26日(月) 14~16時
長崎大学 文教キャンパス 中部講堂にて
(参加費無料)



写真: 金子聡 (長崎大学 熱帯医学研究所)

シンポジスト

- アリ・モハメド・アサード** (世界エイズ・結核・マラリア対策基金 (世界基金) 理事代理, 元ヨルダン保健省技術総括次官)
- ルイ・ダガマ** (グローバルヘルス・アドボケーツ マラリア・アドボカシー広報局長)
- チオマ・ンワチュク** (世界基金支援アフリカ委員会 アソシエート・マネージャー)

世界規模で猛威をふるうエイズ、結核、マラリア等感染症の対策の最前線で活躍している人々と共に世界の現状と国際的な協力のあり様を考えましょう!

主催: 国立大学法人長崎大学

共催: 財団法人日本国際交流センター/世界基金支援日本委員会 / 社団法人国立大学協会九州地区支部

後援: 独立行政法人国際協力機構 (JICA)